



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和8年度

学校の窓 11月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <https://www.ita.ed.jp/1310270>

子どもたちの「できた！」から始まる小さな「幸せ」

副校長 瀧 友 宏

先日開催しました「秋の板四スポーツフェスティバル」には多くの保護者、地域の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。前日の天気とは打って変わり、青空の下、子どもたちが一生懸命に頑張る姿をご覧いただけたことと思います。PTAやさくら会の皆様には、準備から片付けまで多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

さて、ある児童の「秋の板四スポーツフェスティバル」の「振り返り」が職員室で話題になっていました。ダンスの振り付けを考えたこと、それをみんなに教えたこと、それらを先生に褒められたこと等がつづられていました。ここまではよく見られる「振り返り」ですが、続けてこう書かれていました。

「本当に板スゴ練習の時間は幸せでした。」

「先生方にも本当に感謝です。」

きっとこの児童にとって、生涯忘れることのない素晴らしい思い出の一つになったはずですし、担任もうれしくて職員室で話題にしたのでしょう。離れて聞いていた私も思わず心が温くなりました。

学校で子どもたちの様子を見てみると、日々の小さな成長の瞬間にたくさんの「幸せ」があふれていることに改めて気付かされます。「漢字が書けるようになった！」「逆上がりができた！」「友達と仲良くできた！」——子どもたちにとって、この「できた！」「分かった！」という実感は、心を豊かにする小さな「幸せ」そのものです。こうした瞬間に気付き、温かい言葉を掛けてあげられるゆとりを、私たち大人ももたなければいけないと、この「振り返り」を読みながら感じ入りました。

幸福学の研究によると、人が幸せを感じるためには「自分にはできるという自信（自己肯定感）」や「人とつながっている安心感」がとても大切なのだそうです。学校は、勉強や運動はもちろんのこと、集団生活の中で失敗や成功を繰り返しながら、「自分らしさ」を発見し、「つながる幸せ」を学んでいく場です。ぜひご家庭でも、お子さんが見せた小さな挑戦や成長に目を向け、「頑張ったね！」「よかったね！」と声を掛けてみてください。大人が自分の成長と一緒に喜んでくれた経験は、子どもの心に深い安心感を生み、未来へつながる幸せの種をまくことになります。

11月は1・2・3年生には初めての、4・5・6年生には小学校最後の「学習発表会」があります。きっと人前に立つことが苦手な子もいるかもしれません。そんなときこそ、私たちが温かく背中を押してあげ、その挑戦と一緒に喜んであげる絶好の機会です。ご家庭での温かい声掛けを、どうぞよろしくお願いします。